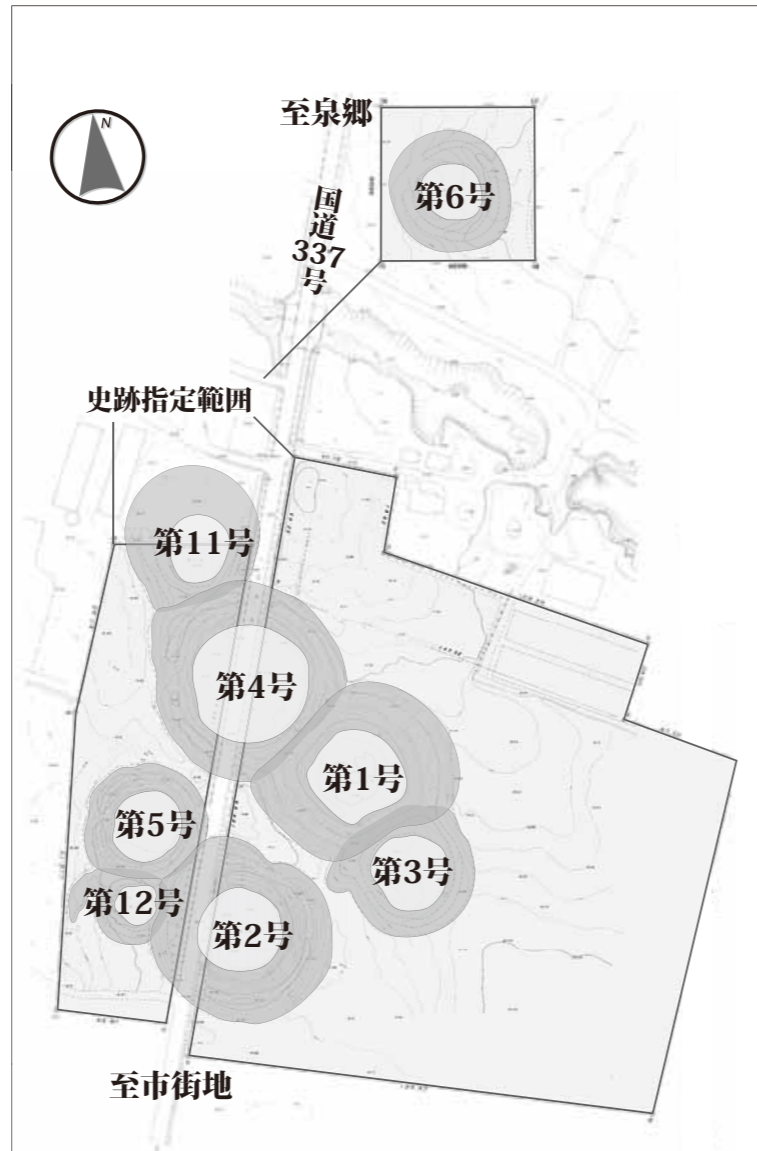


世界遺産の登録をめざす 縄文時代最大級の遺跡群

国史跡キウス周堤墓群とは？



◇所在地◇

市街地から国道337号を泉郷方面に進み、道東自動車道の千歳東インターチェンジ近くを過ぎたあたりから、木々が茂った林の中に入ると国道の両側にキウス周堤墓群が現れます。

◇キウス◇

現在の中央地区です。キウスは、アイヌ語で「キ・ウシ」、「カヤがたくさん生える場所」を意味します。*
*ここには、たくさんの遺跡が残されているとおり、かつては、多くの縄文人が集まり住んでいました。

*かやぶき屋根の材料に使われる植物



第1号周堤墓の4号墓で確認されたときの立石

◇キウス周堤墓群◇
キウス周堤墓群は、縄文時代に造られた国内最大級の集団墓地です。
全部で9基あります。この中でも第2号周堤墓は、周堤を含んだ直径が75メートルもある巨大なものです。

◇これまでの発掘調査◇
昭和39年に第1号周堤墓、昭和40年に第2号周堤墓の一部が発掘調査されました。
第1号周堤墓からは5基、第2号周堤墓からは1基のお墓が見つかっています。

◇第1号周堤墓から出土した遺物など◇
第1号周堤墓の4号墓からは、墓穴の中央に長さ62センチメートルの立石が確認されています。また、5号墓のまわりには、平らな石が置かれていました。

お墓は、楕円形か円形で、深さはすべて60センチメートルです。この形から、遺体は足を折り曲げる屈葬と考えられます。土器などが確認されていますが、副葬された遺物は少なく、遺体は見つかっていません。

国史跡 キウス 周堤墓群



第1号周堤墓

写真提供：北海道立埋蔵文化財センター

◇周堤墓とは◇
周堤墓は、縄文時代後期に土木工事によって造られた北海道だけにみられる特異な集団墓地です。
地面を大きく円形に掘り下げ、土を周りに積み上げて周堤（土手）を造った、スリパチ状にくぼんだ地形をしていることからこの名が付けられました。

◇いつ造られたのか◇
縄文文化は、12,000年前から約10,000年間続きました。
キウス周堤墓群が造られたのは、縄文時代後期後半(3,200年前頃)に限定されています。

◇世界遺産の登録をめざして◇
キウス周堤墓群は、平成24年12月11日に世界遺産の登録をめざす「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の構成資産に追加されました。
平成27年度の世界遺産登録をめざします。



第2号周堤墓の発掘調査

◇ほかの周堤墓から出土した遺物など◇

第2号周堤墓から出土したお墓は8個の石で囲まれており、底には赤いベニガラ（鉄さび）が敷き詰められていました。

昭和40年に行われた国道337号の拡幅工事のとき、第4号周堤墓からは板状礫が出土し、周堤墓の外側で見つかったお墓には石棒が副葬されていました。

これまでキウス周堤墓群の調査が行われたのは、全体のうちごくわずかな部分です。この周堤墓群には、全部でいったい何基のお墓があるのか、また、副葬品などの詳しいことも、ほとんど分かっていません。

国道337号の工事のときに、第2号周堤墓と第4号周堤墓は、一部が壊されてしまいました。大部分は手つかずで残っています。

縄文時代の大規模な造営技術を今に伝える貴重なものとして、昭和54年10月23日に第1号から6号、11号と12号の8基が国の史跡に指定されました。

世界遺産の登録をめざして

◇世界遺産◇

世界遺産は、昭和47年にユネスコ総会で承認された「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）」に基づいてリストに登録された大切な遺産です。

◇世界遺産の登録件数◇

世界遺産には、平成24年時点で世界各国のさまざまな遺跡などが962件登録されています。

国内では、奈良県の法隆寺や広島県の厳島神社、岩手県の平泉などの文化遺産が12件、青森と秋田の両県にまたがる白神山や鹿角島島の屋久島、北海道の知床、東京都の太平洋上にある小笠原諸島の自然遺産が4件、あわせて16件が登録されています。

◇世界遺産の登録をめざして◇

北海道、青森県、秋田県、岩手県とその市町で構成する縄文遺跡群世界遺産登録推進本部は、平成24年12月11日に青森市において推進本部会議を開催し、キウス周堤墓群を構成資産に追加することを正式に決定しました。

このことよって、キウス周堤墓群は「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」として、平成27年度の世界遺産登録をめざします。

◇世界遺産の登録◇

世界遺産の登録にむけて、平成25年9月に推進本部から文化庁に「暫定版推せん書」を提出し、平成26年2月に文化庁からユネスコに「推せん書」を提出していただく予定です。

平成27年度には、ユネスコにおいて、世界遺産登録の審査が行われ、登録されるかが決定します。

市指定有形文化財 磨製石棒（昭和52年4月23日指定）



昭和40年6月に国道337号の拡幅工事が行われたとき、第4号周堤墓の周堤外側からお墓が見つかり、この磨製石棒が副葬されていました。

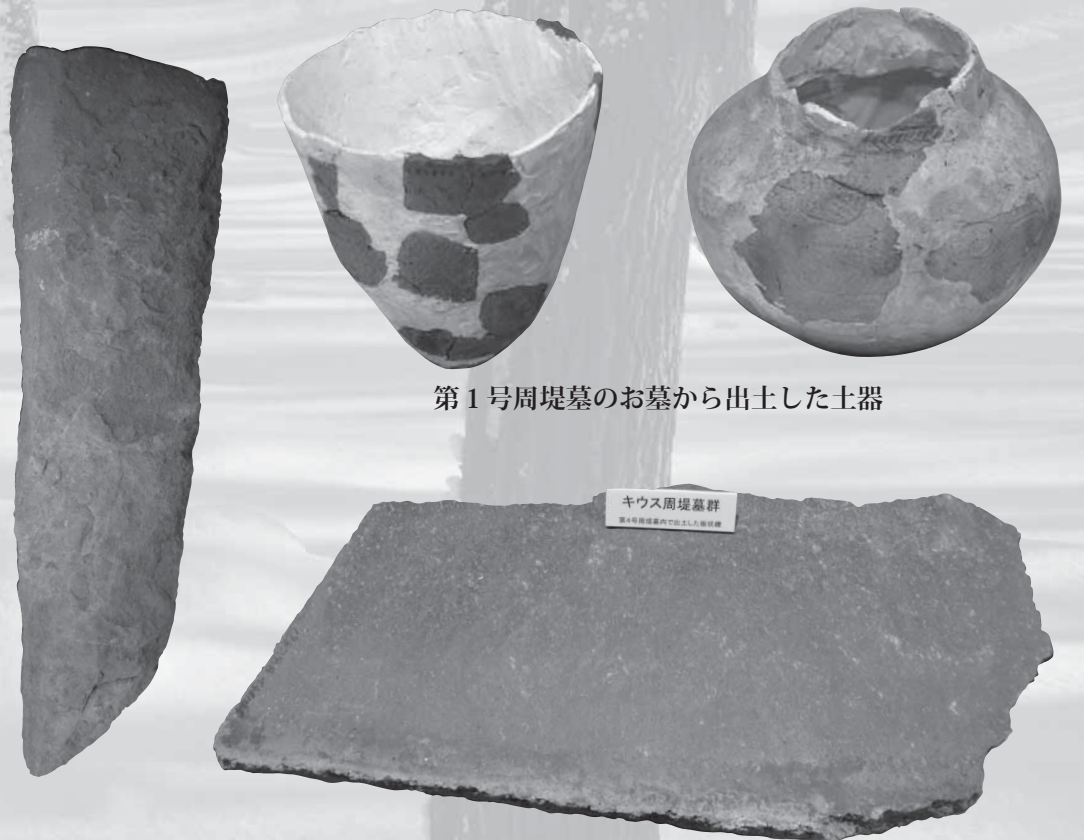
縄文文化と周堤墓について

◇縄文文化は自然と共生◇

縄文文化は、12,000年前から約10,000年にわたり、狩猟・採集・漁撈（魚貝や海そうなどの水産物をとること）と定住生活によって栄えた世界歴史の中でも特にめずらしい文化です。縄文人は自然と共生しながら固有の文化を育んできました。

その社会を維持するために「集団が結束すること」が大切で、そのために集団墓地をみんな造り、埋葬の儀式を行ったと考えられます。墓地をみんなで造る中で仲間意識が高まり、この世の生を終えた自分たちが帰るべき場所をつくるときに生まれる「一体感」が心の充実を生みだし、集団の結束をより強めたものと考えます。

第1号周堤墓のお墓から出土した土器



・第1号周堤墓の4号墓で確認された立石です。
 ・墓穴の中央に立っていたので、墓標と思われず。
 ・長さは、62センチメートル、お墓の中に深く埋められていて、30センチメートルほどが地上に見えていました。
 ・墓穴の中央にあること、墓標にしてはかなり低いことなど、ほかの周堤墓には見られない特徴があります。

昭和40年6月に国道337号の拡幅工事が行われたとき、第4号周堤墓内から出土した板状礫

◇周堤墓は千歳地域で誕生？◇

周堤墓は北海道だけに造られた縄文人の集団墓地であり、世界のどこにもみられない特殊な遺跡です。また、道内の周堤墓の8割以上が千歳地域にまとまっていますので、周堤墓はここで誕生したという説もあります。

国史跡キウス周堤墓群は、その頂点を極める並はずれた規模をもっています。第2号周堤墓を造るために移動した土の量は5,900立方メートルで、縄文人15人が丸2年を必要としたという試算もあります。

さらに、キウス周堤墓群は、3,200年前頃に造られたときの状態を、現在の地上ではつきりと確認でき、縄文社会を想像できる大変貴重な遺跡です。

今後、遺跡を見学する人たちが散策を楽しみ、遠い古代に思いをはせることによって、憩いや癒しの場として利用できるような環境を整えていきたいと考えています。



埋蔵文化財センター センター長 高橋 理

お問い合わせ

教育委員会

埋蔵文化財センター

☎（24）4210